

令和元年度 第6回 小野申人といきいきトーク

と き	令和元年2月21日（金）19時～20時30分
と ころ	府中市役所
テ ー マ	これからの府中市の子育て支援について
出席者	中須保育所・たま保育園保護者8名 市長、唐川健康福祉部長、荻野教育部長、 山田女性こども課長、門田学校教育課長

今、府中市でも子育て・教育の点については、貴重施策の一つとして挙げさせていただき、進めているわけだが、そうした中、まさに子育てをしている皆さんの意見を聞きながら、今後の府中市政にも活かしていきたいと思っている。

市

《遊ぶところ》

- ・ お祭り広場とかをもう少し活用したらどうか。10数年前は、バッティングセンターやボーリング場、ゲームセンターがあったが、次々ところなくなり、若者がどんどん福山の方に出ていく傾向があると聞いた。そういったところが充実したらいい。

《情報発信》

- ・ 府中市でしているさまざまなサービスがあるが、知らないものが多い。今の20代、30代の目に届きやすいSNSなどの媒体で知らせてほしい。
- ・ 広報紙が、何々があります。やりましたという内容で、親世帯やおじいちゃんおばあちゃんに対するアプローチはあっても、若者に対するアプローチがないと感じている。昨年、森友さんに来てもらったが、(自分はファンだったので、行ったが、)若者にとって、森友さんが分かるのかと感じた。
- ・ 家が近いからだけではなく、こういう支援があるからここの保育園に行かせようなど、親が保育所を選べる知識を持てるような、各保育所の特色や魅力を市で広報してほしい。

《医療》

- ・ 産婦人科が府中市にないので、福山まで行っていた。やはり、30分はかかるので、タクシーなどの事前予約などもしていたが、だれもない日中に出産となったらと不安に感じていた。府中市に産婦人科があれば、安心できる。
- ・ 夜に子どもに熱が出て、市民病院では受け入れができず、福山の夜間医療センターに行くことになる。他の子どももいて、そこまで行くのはかなり負担になるため、受診せずに次の朝まで待つことがあり、医療機関が充実すればと思う。
- ・ 府中市民病院の小児科に行くと、先生が毎回違うので、かかりつけ医にはならないので、そこが気にはなる。

この回で6回目になるが、どの回もこの話が出る。働きかけもずっとしているのだが、産婦人科、小児科の先生が全国的にも減っている中で、お医者さんの確保は難しい。それでも、夜中とか、その辺の支援がどうできるかを考えていかななくてはいけないと思っている。

市

- ・ 小児科の件について、例えば、府中に残って医療を目指している学生に補助金をだすとかすればいいのでは。

すでに奨学金制度がある。今、やり始めて5年が経ち、最初の奨学生が医学部の5年生になる。今の医学制度は6年医学部、その後2年の初期研修、その後3年の専門研修がある。初期研修を福山市民病院と連携しながら受けてもらい、その後、専門研修を受けてもらおうと考えている、毎年面談をしていて、「府中でがんばります」と言ってくれている。現在、5人の学生が奨学金を受けている。その子は、総合内科でいわゆる僻地医療、難しい手術はしないが、なんでも診られるので、小児科であれば、いわゆる初見は診てもらえる。そこを目指して、彼が早く府中市に帰ってくるのを待っている。

奨学金以外にも、府中市で開業していただければ、小児科・産婦人科で2,500万円支援、内科で1,500万円支援する制度がある。

市

《学校》

- ・ 私が小学校の頃は置き勉強(教材を学校に置いて帰る)ができていた。子どもが、すごくたくさんの教材を持ち帰るので大丈夫かと思う。その実施がないのかと思う。

府中市は、一世代前は、青色のぺちゃんこの鞆だったが、保護者から、学校でどんな勉強をしているか家でも見てやりたいので、教科書などを持ち帰れるようランドセルに変えてほしいという要望があり、教育委員会も学校と連携して、ランドセルに変え、家で勉強を見てやることができるようになったと保護者に喜ばれた。府中市はそうやって、だんだんと教育を変えてきた歴史がある。今は、全国でも重さが話題になるようになり、文部科学省から、子どもの携行品は軽くできるように教材を持ち帰らなくてもいいように配慮するようにとあり、今は、毎日両手にも持って行くということがないよう配慮して、だんだんと変えてきている。

学課

- ・ ランドセルを買うのに、どれを買えばいいか悩んだ。学校で統一してほしい。

P T Aの保護者の皆さんが総意として、統一してほしいという声があれば、検討を視野に入れたい。

教部

《放課後児童クラブ》

- ・ 自分も妻も神辺に務めているため、放課後児童クラブに、6時15分までに迎えに行くのが、非常に焦る状況。これが、迎えの時間が7時まで伸ばせるのであれば、買い物ができるとか、車も焦らず安全に運転できる。

- ・ 実際に利用している人が、定時まで働きたいけど、遅れてはいけないので、5時までの時短で働いている。そこは、給料につながる場所なので、できれば迎えの時間を7時までにしてもらえれば、安心して働くことができる。

迎えの時間は、昨年度まで6時であったのを、今年度から6時15分までに、たった15分と思われるかもしれないが、延長している。希望として、6時半、7時とあるのは、十分承知しているが、今年度から6時15分まで延長すると伝えたところ、その時間であれば無理です。と何名かの支援員の方が退職された。放課後児童クラブを運営している支援員の家庭の事情もあり、6時半、7時への時間の延長は難しく、今は6時15分がぎりぎりの時間です。また、長期休業中も朝8時30分の開始を今年から8時の開始に変えており、1日という朝30分、夕方15分の合計45分を延長している。昔に比べると、徐々にではあるが、延長はしているが、なかなか、すぐに7時まで延長とは検討していない状況で、今の支援員だけで全てをしていくのは、難しいところです。ただし、国府小学校であれば、新しい国府公民館ですることもあり、何か地域の方にも協力していただけるようなことができないかと考えているところです。どうしてもお困りの時は、ご相談ください。

女
課

- ・ 来年度から子どもが小学校に上がるが、土曜日の放課後児童クラブは、府中学園まで行かないといけない。下の子を保育所に連れて行き、上の子を府中学園に連れていくとなると勤務時間に間に合わない。学園単位でまとめてもらえれば助かる。

府中学園でしている大きな理由は、校門を入ったところに放課後児童クラブ専用の建物があること。放課後児童クラブの中には、学校の中の施設や教室を使っているところがあり、学校が休みの土曜日に、そこを開けて入らせていただくことは難しい。国府については、今度、新しく公民館ですることになるので、検討を始めようと思っている。ただし、支援員の中には、土曜日は出られないという方もかなりいる。今は、上下町を除く支援員にローテーションで出ている状況。

女
課

- ・ 放課後児童クラブに入る要件が、今年から同居の祖父母の年齢が65歳から70歳に変わり、預けることができなかった。

定年の年齢が上がり、65歳はまだまだ現役の方が多い。70歳の方でもお元気で、家で子どもさんをみるができるということで、70歳を一つの切りにさせていただいた。ただ、一律に70歳といっても、体力的に難しいなど、ご事情によっては、申立書などを出してもらい、預けていただくこともできる。また、放課後児童クラブの対象を4年前から6年生までに拡大したことで、人数がかなり増えてきていて、学校に通う子どもの人数は減少しているが、入る希望の子どもさんはかなり増えている状況です。

女
課

《子育て・学習支援》

- ・ 保育料無償化も福山市よりも早くしていただけて、府中市すごい！と思っていた。し

かも、説明されたように市独自で給食費の無償化もされている。それを知らない人が多いのが残念。何度も言ってもらったほうがいい。市が「やっている」というのが分かる。

- できれば、0歳から無償化になればいい。
- 塾とか学力を伸ばしていこうとしている子の家庭に対して、1回100円くらいのタクシーの補助を出すなどの支援があればいい。府中市に引っ越して、こっちで習い事をさせようかと思うのではないか。

支援の仕方もいろいろあり、例えば、上下高校では、福塩線とかバスは、待ち時間が長いため、今年の春からタクシーの補助など交通費を補助する。

学習支援は、地域によって、塾に行かなくても何らかの形で学習を見てくれるところもある。お父さんやお母さんが安心して働ける形で、どういうことができるかを考えていくことは必要だと考えている。ただ、今言われたタクシーの補助は難しいかと。

市

- ありがとう積み木があるが、絵本の方がよかった。

ブックスタートで4か月健診のときに絵本を渡し、ありがとう積み木は、平成28年の4月に生まれた子から新たに始め、10か月健診のときにお配りしている。絵本がなくなったわけではなく、積み木を新たに追加してお渡ししている。

女
課

《ポムポムなど》

- ポムポムは遊べるものがたくさんあって、利用しているが、小学生がかくれんぼや鬼ごっこをするため、1歳の子がいるとちょっと危ない。ポムポムは最高にいいが、対象年齢が難しい。
- 自販機があり、2階でご飯が食べられるのもいい。ただ、親のいるスペースが少ないかなと思う。

ポムポムの奥の駐車場になっているところは、川と一体的に公園にする計画を立てている。また、来年の春から、府中天満屋の2階にネウボラを移し、芝生の広場とちょっとした遊具を置くよう考えている。小さい子はポムポムに、小学生は府中天満屋に行ってもらえばいいという構想がある。

市

《人口減》

- 現在、40代前半で、自分の小学校のときは、人口が5万人くらいいたが、今は、4万人を割っている。教育をよくするのはありがたいが、子どもよりも親の支援を先にした方が、人が集まり、出ていかないのかと思う。親から子に「府中はこういう町で、企業はこんなんがあって」と教え、子どもも「府中はいい町だね。残ろうかな」とか「ここで働きたい」という気持ちが湧くのではないかと思う。

人口が全国的にどこも減少している中、若い世代や子育て世代に入ってもらいたい、大学等で市外に出ても、その子たちに府中市に帰ってきてほしいと思う中で、小学校・

市

中学校で府中市のことを知る学習をしている。そういったことも人口減少を止める一つの方策かと思う。実は、府中市は昼間の人口の方が多い地域。新市、駅家、神辺など市外から働きに来ている。働く場所が府中市であれば、府中市の保育所で預かれるようにしようとしている。府中市の保育所の良さを知ってもらい、買い物もしてもらおう。そういうところを含め、子育て世代にスポットを当てた施策をしているが、若い世代に発信することも大切な部分と思う。

市

《交通》

- ・ 市外の学校に通っていて、スクールバスで府中天満屋まで帰ってくるが、天満屋から家に帰るバスの時間と合わず、中バスと時間をかけあっている。市と半年に1回バスの運行を話しているので、と言われたが、その話のフィードバックはまだない。

交通関係で言うと、今の子どもさんの話とか、高齢者の方が免許を返納されたときに市としてどういったことができるのか、協議を始めているところです。

市

《災害》

- ・ 豪雨災害で、子どもたちが通学路としている大門池のところが崩れて、ずっと直らない。池をつぶしてもいいのでは。

現在、大門池の工事に取りかかっているところ。また、大門池は、実際に水を使っておられる方もあり、大雨が降った時の調整の役割も果たしているため、つぶすわけにはいかない。そこで、子どもたちが安全に通れるよう、きちり流れるように作っているところ。大変ご迷惑をかけているが、もう少し待ってほしい。

せっかくいただいたいろんな意見を参考にさせていただきたい。今日に限らず、気づいたことがあれば、市にいろいろご意見をいただきたい。

市